■ 現在の「子どもワクワク食堂」

最初はＮＰＯのカフェで始めましたが、色々な子ども達に来て欲しいので、新たに月１回公民館で子ども食堂を始めました。また、総菜の販売がなくなった松井田高校に、テイクアウト部として実費の５０円から１５０円で総菜を販売しています。併せてフードドライブとフリーマーケット、ロス食品、不用品をなくす取組をしています。活動が新聞に載るようになって、地元の方や全国から応援してくださる方がたくさんいて、支援を受けながら３年運営してきました。

■ これからの「子どもワクワク食堂」

「安中子ども食堂共同農園」の運営、子ども食堂を自立的に運営出来ないか。給食の残菜調査では、野菜を育てている学校は残菜が少ないのが分かります。そこで、自分たちで野菜を作り、収穫の喜びや大変さを、子どもと共に学びたいと始めました。これまで嫌いだった野菜が食べられるようになったり、いつもは食べないものを食べるという場面が見られているので、野菜を育てる中で、さらに食べることのおいしさを、みんなでかみしめる良さにつながるのではないかと思います。

安中 子どもワクワク食堂

■ すべての人をひとりぼっちにしないために

すべての子どもをひとりぼっちにしないためにというスローガンを掲げましたが、今では、すべての人をひとりぼっちにしないためにではないかと思っています。食堂には高齢者の方も来ています。いつも孤食だけど、子どもの声を聞きながら食べる食事は本当においしいと言ってくれます。すべての人にとっての居場所である。それがとても暖かくて、自由で、そしてみんなが求める場所になってきているのかなと思いました。

■ 絶望の前に届けないと意味がない

市民団体では限界があります。すべての大人が、子どもを中心に据えて協力しあえる体制を作れないかを課題にしています。深刻なのが、本当に落ち込みすぎてしまうと、ヘルプを出さなくなってしまう。そうなる前に届けないと意味がないのです。そこに行く前に繋ぐことを、地域や行政がやる必要があるのではないかと思います。

地域の課題は様々で、この地域でやっていることが別の地域でやって上手くいくとは限らなことを考えると、答えのない課題です。どう向き合うのかを、みんなが相談し合い、時間をかけることも、重要ではないでしょうか。

■ 貧困によって子どもの権利が侵害されている

群馬子どもの権利委員会の世話人をしていますが、大人たちが作っている暮らしが、子どもにとってとてもつらくなっていると感じます。子どもの権利がどうなっているのかという視点を大事に見ていく必要があると感じています。

全国で子ども食堂の動きを牽引しているのが東京都豊島区ですが、豊島区は子どもの権利条例を作っています。「あなたは一人じゃない、あなたはあなたのままでいい」子ども自身が声を上げて、自分の声を届かせる努力、そして大人たちが子どもの声に耳を傾けるという環境づくりにつなげていく必要があるのではないかと思います。

小河 雅史さん
子どもワクワク食堂実行委員会

大学時代の部活でお世話になった先輩に、感謝の気持ちを伝えたとき「先輩への恩は、後輩に引き継いでいくものだから」と言われ、次世代を育てることを大切にしていこうと思いました。子ども達には、自分の生き方、可能性があることを伝えていけたらと思います。

自分がやりたいことに向かっていった結果、子どもワクワク食堂に巡り会うことができ、自分から行動することの大切さを感じています。自分自身が、そして子ども食堂が、少しでも周りの力になれたらと思います。

パネルディスカッション

■ コーディネーター：杉原 みち子氏（群馬県地域づくり協議会 副会長）
■ パ ネ リ ス ト ：長谷川 恵理子氏（野菜ソムリエ 上級プロ）
今村 井子氏（子どもワクワク食堂実行委員会 委員長）

コーディネーター：杉原氏　意欲的な質問をお願いします。充実した豊かで良い時間を過ごしましょう。

Q 松井田高校のテイクアウト部は、高校の調理室でやっているのでしょうか。

今村氏　とても立派な業務用の厨房がありますが、県内では調理室を貸した実例がなく、借りていません。子ども食堂といえども保険や営業許可が必要で、保健所に指導を受け、営業許可が取れるキッチンを探し回りました。結構条件があり、通ったのが松井田の奥にあるバリアフリーペンション森の家です。キッチンが個室化されていて、そこを格安の値段でお借りして調理し、車を走らせて届けています。

Q お２人に共通するものが食で、マッチングの良いチャンスではないかと思います。子供の時期の食育がとても大事で、さらにプラスの効果が生み出せるのではと考えられますが。

長谷川氏　繋がれたらありがたいなと思っています。長谷川農園も親子教室や収穫体験、イベント活動もしています。地域の畑、農園を使うことが地域の活性化に繋がります。ぜひ地域の農業者さんとお繋ぎできればと思います。

今村氏　子どもを真ん中に置いて体験活動をされて、とても良いなと思いました。これから育っていく子どもと食を一緒に作るという魅力。東京の子ども食堂が食材に困っているとニュースがあり、それを見て群馬はとても恵まれていると思います。これだけの自然、農地がたくさんあります。群馬モデル、安中モデルにしたいと強く思いました。

Q 最前線で活躍している女性は、順風満帆に事が進んでいるように思われがちですが、壁にあたってどうクリアできたか、思い出に残るようなエピソードがあれば聞きたいです。

今村氏　千差万別にいろいろな意見が届きますが、ひとつひとつを丁寧に説明し、誠実に受け止めて、正々堂々と訴えていくことがとても重要です。子どもと向き合って子育てをしていく私たちにとって、社会をどう作るか重要なことです。問題をどう解決したいか、自分の意見を正々堂々と言うことが、子どものためになるのだからと夫が応援してくれたことも、とても大きかったと思います。